

Ⅱ. 研修について

1. はじめに

今年度の研修は、昨年度からの学校経営計画及び学校評価にある、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざすという中期的目標、また、教員の課題やニーズに応じた研修を行い、専門性の向上に努めるという重点目標を基に引き続き研修内容を検討し取り組みを進めた。

昨年度まで、自立活動部、教務部と協働で行っていた研修会は、教育企画部が組織されたことにより一つの分掌で計画的に企画し実施することが可能となった。

研修会としては、「アセスメントチェックリスト」導入に向け全教員を対象とした外部講師による研修会と、肢体不自由児教育に関する専門性を高めるための新転任教員及び希望者を対象としたスキルアップ研修会を実施した。昨年度課題としてあげていた事例や実践から学ぶ研修として今年度は、各々の取り組みをポスターにして校内に掲示し発表するという形式で校内実践報告会を行った。

2. 校内研修会 対象：全教職員

- ・「自立活動の理解とどのように授業を作っていくのかについて
～目標設定と原因・目的分析について～」 (7月21日)
講師：広島県立福山特別支援学校 川口辰之進先生
- ・「肢体不自由のある子どもの指導についての医学的配慮と対応」 (12月9日)
講師：四天王寺和らぎ苑 本校校医 塩川智司先生
- ・「チェックリストを活用した具体的な指導目標の設定」 (2月9日)
講師：広島県立福山特別支援学校 川口辰之進先生

3. スキルアップ研修会 対象：新転任教職員 希望者

- ・「自立活動基礎講座」 (5月8日)
講師：本校教諭 平尾健介
- ・「食べることについて 安全で楽しい食事時間を」 (5月17日)
講師：大阪府立光陽支援学校 田中瑞來先生
- ・「子どもの運動発達について PART 1」 (6月23日)
講師：FBM研究会 大島昇先生
- ・「FBMの基礎・基本について」 (7月18日)
講師：FBM研究会 大島昇先生
- ・「臨床動作法の基礎と実技」 (7月26日)
講師：兵庫県立和田山養護学校 柴田泰之先生
- ・「あなたも使える支援機器 (機械が苦手な人歓迎)」 (8月1日)
講師：株式会社パシフィックサプライ 田原愛様
本校教諭 平尾健介、森山裕司
* 地域の学校に向けての研修会と兼ねて実施。

- ・「教材を活用した発達支援」 (8月2日)
講師：奈良県立奈良養護学校 高橋浩先生
*地域の学校に向けての研修会と兼ねて実施。
- ・「てんかんのある子への教育的支援」 (8月28日)
講師：日本てんかん協会 坂下茂先生
*地域の学校に向けての研修会と兼ねて実施。
- ・「iPad超基礎研修」 (9月6日)
講師：本校教諭 森山裕司
- ・「第2回 教材教具コンテスト 発表会」 (9月21日)
- ・「子どもの運動発達について PART 2」 (1月9日)
講師：FBM研究会 大島昇先生

4. 新転任者研修会

○4月

- ・「本校の教育について」 (学校長)
- ・「本校のカリキュラムについて」 (全校教務)
- ・「本校の教育改革について」 (教育企画部)
- ・「避難経路について」 (生活指導部)
- ・「緊急時対応について」 (健康教育部)
- ・「児童・生徒の健康観察他について」 (養護教諭)
- ・「医療的ケアについて」 (医療的ケア安全委員会)
- ・「5段階給食について」 (栄養教諭)
- ・「車椅子操作、及び介助について」 (教育企画部)

○6月

- ・プール指導について (健康教育部)

5. 実践報告会 (発表テーマ)

- ・学校全体の実践
 - 「『楽スタ』で楽しくスタンディング練習をしよう」
 - 「障がい者スポーツ『ボッチャ』を通じたスポーツ交流」
 - 「視線入力装置を使って学習しよう」
- ・小学部の実践
 - 「よく見てよく聞いて自分の好きなことを選ぼう」
 - 「しっかり起きて学習しよう！」
 - 「朝の会ボードを使って楽しく朝の会をしよう」
 - 「頭を上げて立とう」
 - 「つながりを持たせた教育活動」

- ・ 中学部の実践
 - 「かんかくあそび（きく・ゆれる・さわる）」
 - 「初期感覚で造形活動～パラバルーンを描こう～」
 - 「好きな物を選んで伝えよう！」
 - 「数量概念の形成～重さ～」
 - 「みんなの紅葉」
 - 「こたつ&かまくら～足湯も入ってあったか冬体験～」
 - 「目的物まで歩こう」
 - 「ヘッドコントロール」
 - 「おみくじを引いて、今年の運勢を占ってみよう」
 - 「描画活動の実践（大阪城を描こう）」
 - 「身の回りを知ろう」

- ・ 高等部の実践
 - 「物に合わせて手を動かそう」
 - 「お金の学習」
 - 「さるかに合戦」
 - 「感覚運動遊具に乗って身体の学習をしよう」
 - 「物を操作する力をつけよう」
 - 「身体の動きを感じよう」
 - 「明暗、光を楽しもう」

6. まとめ

外部講師による研修会では、「アセスメントチェックリスト」を活用し授業力の向上をめざすために必要な研修と児童生徒の実態把握に役立つ研修を実施した。スキルアップ研修会では、肢体不自由児教育に関する専門性を高めるために内容を精選して実施した。実践報告会では、各々の実践をお互いに知る良い機会となった。なお、実践報告の内容は、今後本校ホームページで公開予定である。

学校教育診断における教職員のアンケート結果では、「授業力や専門性の向上」に関する校内研修の体制や内容について肯定的な評価は90%を超えており、外部講師を招いた研修会の取り組みは教員の専門性の向上に対し一定の評価は得られた。特にスキルアップ研修は、初任者の教員や肢体不自由校以外から本校に来た教員にとって、日々の指導に役立てる研修内容であったと思われる。また、外部講師を招いた研修会だけでなく、校内の教員を講師とした研修会や実践報告会など、校内で研修する体制がとれるようになってきたことは、研修の効果を上げることに役立ってきている。

研修に関するアンケート結果から今年度の研修の成果としては、次の点があげられた。

- ・ アセスメントチェックリストの重要性が詳しく学べた。
- ・ アセスメントチェックリストを学ぶことで、目標を達成するために何が 필요한のか、どんな取り組みをすればよいのか等考えることができた。

また、次年度の研修には、知的な面の基本的な発達の過程についてもっと詳しい研修をしてほしいという意見が寄せられた。

これらのことをふまえ、今後も教育企画部では、学校経営計画の目標に掲げている「特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす」ために以下のような研修会を企画・運営していくのが良いのではないかと考えている。

- ・外部講師による専門性の高い研修会
- ・肢体不自由教育の基礎・基本に関する研修会
- ・「アセスメントチェックリスト」の活用に関する研修会
- ・児童生徒の認知発達に対する知識、理解を深める研修会
- ・コミュニケーションの指導に関する研修会
- ・新学習指導要領に関する研修会
- ・事例や実践から学ぶ研修会

これらの研修会を実施するにあたり、外部講師による研修会だけでなく、校内の教員を講師とした継続的な研修体制を整えることも必要になってくるであろう。新転任の教員はもちろん経験のある教員も一緒に研修を進め、児童生徒の学びがより充実したものとなるように、より専門性の高い指導を実践していくことをめざし限られた時間の中ではあるが計画的に取り組みを進めていきたいと考える。